

生で接する官僚用語に超カンゲキ

先週お知らせしたとおり、さる3日に、日立と太田の両税務署に申し入れに出向き、それぞれ総務課長という肩書きの方と面談をしてきました。人としての個性ってのは出るもので、遠慮がちに自分の言葉に置き換えようと努める役人もいれば、こちらの話などまるで聞かずにぶっきらぼうに「申し渡す」なんていきがってるのもいて、興味深い人間観察をさせていただきました。

こほん。いっぽう人間ができていますので私(すずき)などは柔らかに言葉を発したほうなのですが、たとえば農民センター事務局の大野さんときたら「税金申告においては私たち納税者こそが主人公なのだ。あなたの態度は何なんだ。勘違いしているのではないかと、ピシャリ。

また、日立民商会長の西村さんときたら、税務署を退職して資格を得た税理士に、税務署が顧問先を斡旋している実態についての国会質疑と、それを認めた財務相の答弁を報じた新聞記事を示して、「とんでもないことだ」と、これまたピシャリ。

話は変わるけど、きょう9日、北茨城市議会で、うちの母ちゃんが一般質問に立ちます。で、07年度から始まるとされる新しい農業政策について改めて調べてみました。が、

それはもはや、現実離れした絵空事ではないかという「善意」など入り込む余地はなく、国内農業を潰していこうとする明確な政策だと言わざるをえない代物です。そして、そんなものに従っていただけだとしたら地方農政も

情けないかぎりです。

とか、考えていたらインターネットで8日朝、「農水OBも二重天下り 年収は計2千万円近く」と題して、こんなニュースが流れてきました。

“農林水産省のキャリア幹部OBが、同省から補助金を得ている財団法人「全国米穀取引・価格形成センター(コメ価格センター)」と、農協系シンクタンク「農協共済総合研究所」のトップとして天下り、双方から報酬を得ていることが分かった。コメ価格センターの会長には歴代、農水省のキャリア幹部OBが就任し、過去の会長も他団体のポストと兼任してきた。同省幹部は「複数の団体からの収入を合計し、年収が2000万円近くに達するよう配慮している」と明かす。

中央省庁のキャリア職員OBが複数の組織に天下りし、高い収入を得ている例は防衛庁でも明らかになっている。農水省のキャリアOBが会長として天下っているコメ価格センターはコメの入札を運営する。農水省からの補助金が収入の柱の一つで、歴代の会長は全員が農水省のキャリア官僚OB。会長以外にも多くの職員が同省出身者だ。”(以下略)

いやはや何というか…、

こまで日本の食と農をこわして、たとえばBSEでもあんなでたらめな仕事を重ねてきた農水省の幹部が、のうのうと自分たちだけは安泰な老後を保障する仕組みを作ってきていることに本当に腹が立ち、我慢できずに農水省に電話をかけちゃいました。



鳥骨鶏に抱えさせて31日目。卵からかえったばかりのアイガモのひな

03-3502-8111(代表番号)。受付氏に「茨城で百姓やってる者だけど農水省幹部の天下りのニュースをきいて言いたいことがある」と話したら、つながれたのは「消費者の部屋」だつて。農水省に「農家のための部屋」はないのかあ!?

その対応がまたふるって、「おっしゃるニュースは承知していないので、コメントをすることは差し控えさせていただきます」だと。ただし「一般論として、天下りの関係も含めて政府においてさまざまな検討に着手していると聞いております」ときた。

あのねえ、あなたが帰宅して奥さんにお風呂にするか食事にするかと聞かれたときに、「それよりもオヤツを食べる関係についても検討してみてもどうかと承知しております」とか返事をするのか、こらあ。そんなんでまともな社会生活を送れるのかあ。ふつうの日本語をしゃべらんかい!

こほん。私としたことが、つい熱くなってしまいました。

木っ端役人の税金ムダづかいに怒るだけでは生産的でないので、がんばっている民間人の例を2つほど紹介したいと思うんだけど、北海道の小田さんと、栃木県の小池さん。というところで紙面がつかまりました。

(つづく…かどうか未定)